



**EDUCATION  
CANNOT  
WAIT**

# 未来への投資

2024年 年次成果報告書

概要

## 本出版物について

本報告書は、「教育を後回しにはできない基金（Education Cannot Wait: ECW）」事務局の指導の下、ECW 執行委員会、助成金受領団体、および ECW ハイレベル運営グループの構成員の協力を得て作成された、2024 年 ECW 年次成果報告書の要約です。本書は 2023 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月までの期間を対象とし、本報告書に表明されている見解は著者のものであり、ドナー機関や国連加盟国を含む国連の見解を必ずしも反映するものではありません。また、地図で使用される境界線、地名および名称は、国連、ECW、またはパートナー諸国による公式の承認あるいは承諾を意味するものではありません。本報告書におけるすべての数値は、特に明記されていない限り米ドルで表示されています。

2025 年 9 月 Education Cannot Wait



## 教育を後回しにはできない基金（Education Cannot Wait: ECW）について

教育を後回しにはできない基金（ECW）は、緊急時および長期化する危機下の教育に特化した国連のグローバル基金です。私たちは、難民や国内避難民、その他の危機の影響を受けた少女・少年が誰一人取り残されることなく、質の高い教育が受けられるように支援しています。ECWは多国間システムを通じて、危機下での対応スピードを高めるとともに、複数年にわたるプログラムを通じて緊急支援と長期的な支援を結びつける取り組みを行っています。ECWは、支援の効率性を高め、連携不足を解消するため、政府・官民ドナー・国連機関・市民社会組織・その他の人道支援・開発援助関係者との緊密なパートナーシップの下支援しています。ECWはより多くの脆弱な立場の子どもや若者を支援するため、官民のドナーに対して支援の拡大を緊急に訴えています。

フォローはこちら：

@EduCannotWait



詳細は [www.educationcannotwait.org](http://www.educationcannotwait.org) でご覧いただけます。

お問い合わせ：[info@un-ecw.org](mailto:info@un-ecw.org)

表紙写真：

© Plan International Bangladesh/Mahbub Alam

マルファ、レベッカとサディアは、バングラデシュ・コックスバザールのロヒンギャ難民キャンプで ECW が支援する学習施設に通っています。これまでに教育を受けたことはなく、基礎的な識字と計算能力を得る機会をセンターで提供しています。今では、彼女らはコミュニティの変革者となり公平な未来を築いています。

# 目次

概要	3
1. 危機の影響を受ける子どもたちの教育アクセス拡大と学習の促進	5
2. システム、調整、現地オーナーシップの強化	7
3. より効果的な EiEPC 資金の動員と焦点化	8
今後の展望	10
支援された子どもの数	12
スコアカード方式	14
成果フレームワーク スコアカード	15



# 概要

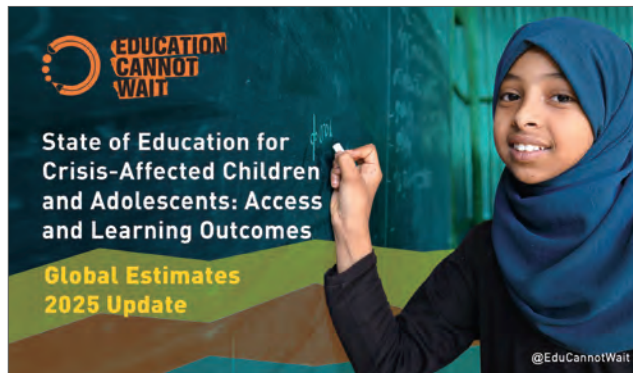
「教育を後回しにはできない基金（ECW）」とそのパートナーは、紛争の深刻化や気候変動による緊急事態、援助資金の減少にもかかわらず、危機に影響を受けている世界中の少年と少女たちに対して、2024年も引き続き、包摂的で質の高い教育の提供に取り組み続けました。2023年-2026年戦略計画の実施初年度の成果を踏まえ、ECWは戦略的な目的と目標の達成—緊急時および長期化する危機下の教育（EiEPC）への資金の増額と改善、教育システム、調整の強化、そして子どもと青少年・少女への結果の提供—に向けて進展を加速させました。

世界的な圧力が高まる中で、ECWはさらに多くの子どもたちに支援を届け、学習の質と公正性を向上させ、世界的に最も複合化した危機に際して重要な資源の動員を行いました。今年次成果報告書は、緊急の協働の行動を必要とする主要な課題を特定するとともに、ECWの影響力の規模と質を強調します。

## アドボカシーのハイライト

### 行動を起こす 2 億 3400 万の理由

「教育の国際デー」に合わせ、ECW が新たに発表した「グローバル推定調査」では、危機下にある学齢期の子ども 2 億 3400 万人が緊急の教育支援を必要としている実態が明らかになりました。教育援助資金を上回る支援ニーズの増加に対して本報告書は警鐘を鳴らします。より頻発かつ深刻化する異常気象や気候変動も重なり、複合化された紛争は急速に増加するこうした子どもたちの現在と未来を脅かしています。最も取り残された子どもたちに支援を届けるためには、公的ドナーや民間セクター、富裕層個人からのさらなる財政支援の拡充が緊急に必要です。本報告書の発表は、主要メディアによって 18 言語で取り上げられ、その潜在的な総視聴者数は 19 億人に達します<sup>1</sup>。これにより、危機的状況にある子どもたちへの教育支援拡大の緊急性に対する認知を向上させました。



詳細はこちら：



**19億人**  
潜在的な総視聴者数

1 潜在的な総視聴者数は、様々なプラットフォーム（テレビ、オンラインコンテンツ、ブログ、ラジオ、ポッドキャスト、SNS など）における視聴者数や聴取者数を測定したもので、測定は第三者機関の分析に基づいています。

© Norwegian Refugee Council/Ahmed Ahmed



スーダンの教室で試験に取り組む生徒たちがいます。彼女らの学校は、同国でECWの資金援助を受けたイニシアチブにより再建され、生徒たちは教育を継続することができるようになりました。

## 1

# 危機の影響を受ける子どもたちの教育アクセス拡大と学習の促進

2023年-2026年戦略計画の最初の2年で、ECWが支援するプログラムは33カ国において830万人の子どもと青少年・少女（51%が女子）へ支援を届けました。これは調達資金に基づく比例目標の78%に相当します<sup>2</sup>

これらの成果は、2023年に支援した子どもの数（560万人）から大きく増加し、2026年までに利用できる資金枠内で1,070万人の子どもに支援を行うという目標に向けた着実な進展を反映しています。戦略計画の最初の2年間に支援された子どものうち、590万人は「複数年レジリエンスプログラム（Multi-Year Resilience Programme: MYRP）」を通じて支援され、240万人は「第一次緊急対応（First Emergency Response: FER）」を通じて支援されました。これには世界で最も困難な状況下のいくつかの地域であるスーダン、シリア、コンゴ民主共和国、パレスチナ（ガザ地区を含む）、アフガニスタン、ウクライナも含まれます。

また、2024年に支援された子どものうち、強制的な移動を余儀なくされた子どもの割合は43%に達し、2023年の39%から増加しました。これにより、ECW発足以来、ECWの支援プログラムで支援された子どもの総数は1,400万人（50%が女子）に達しました。



**戦略計画の最初の2年間に支援された子どものうち、590万人がMYRPを通じて支援され、240万人がFERを通じて支援されました”**

全体として、ECWは教育参加やホリスティック学習、ジェンダー平等に関連する8つの戦略計画成果指標のうち6つを達成、もしくは達成に向けた軌道に乗せ、すべての指標において前年度より進捗を見せています（次ページ参照）。

こうした進展があるにもかかわらず、危機の影響を受けている子どもたちの教育への公正なアクセスと学習を阻害する課題が依然として存在しています。具体的には就学前教育や障害の包摂はECW事業全体で著しい不足が見られ、より意図的でターゲットを絞った介入が必要です。また、多くの文脈で中退率や未修了率は依然高い水準で見られます。女子の就学は増加している一方、特に中等教育レベルでの定着率を確保するためには、持続した投資が必要です。さらに、ノンフォーマル教育は、最も不利な立場に置かれた子どもたちに支援を届ける上で不可欠ですが、ノンフォーマル教育への依存度が高まっていることは、すべての学習者に対して学習の継続、資格の認定、持続可能な学習経路を確保するため、フォーマル教育制度とのより強固な統合が緊急に必要であることを示しています。

<sup>2</sup> ECWの2023年-2026年戦略計画は、15億ドルの資金が全額動員されるという前提に基づき、1,950万人の子ども（MYRPを通じて760万人、FERを通じて1,190万人）への支援を目標としました。ECWは2024年末までに9億3400万ドルを動員し、そのうち8億2100万ドル（総資金調達目標の約55%）が確定しています。この状況を踏まえ、ECW事務局は、未確定資金は現行の戦略計画期間内の支援事業のために確保・拠出されない可能性が高いとの推定に基づき、2024年末時点での確定資金レベルを基に進捗の評価を行いました。この評価により算出された「比例目標」は、戦略計画の中間時点で確定されている資金に基づき、ECWが目標とする支援する子どもの数を反映しています。この手法を適用すると、当初目標である1,950万人の55%に相当する1,070万人の子どもを2026年までに支援する（FER: 約650万人、MYRP: 約420万人）とする比例目標が導かれます。

ルダイファ先生はシリアで生徒たちと過ごしています。ECWによる投資は、彼女のような教師が危機の影響を受ける子どもたちの学習を活性化するために、クラス運営や対話型教授法に関する重要な研修を受けることを支援してきました。



## 主な成果



### 96%のプログラム

が教育参加の向上を報告し、そのうち74%がジェンダー公正の改善を示しました。



### 91%

のECWの支援を受けたノンフォーマル教育プログラムが、60%を超えるフォーマル教育への移行率を報告し、前年度の結果を維持しました。



### MYRPの88%

が識字能力および／または計算能力の向上を報告し、78%が社会・情緒的学習の向上を示しました。これは2023年に比べて、それぞれ6パーセントポイントと8パーセントポイントの上昇です。



アフガニスタン、南スーダン、ニジェールのプログラムでは、ターゲットを絞り文脈に配慮したアプローチを通じて、ジェンダーに関する障壁の克服に向けた進展が見られました。データが入手可能な地域では、学習者と教師のいずれも、より公正なアクセスと参加を支援するジェンダー規範に対して前向きな変化を示しました

# 2 システム、調整、 現地オーナーシップの強化

2024年、ECWの投資は、危機の影響を受けた子どもたちにより資するために、国およびグローバルシステムの構造と能力の強化を支援しました。支援プログラムでは、より強力なセクター横断的連携の強化とデータ活用の改善、さらなるローカライゼーションが示されました。いずれも、緊急時における効果的で公正かつ持続可能な教育に不可欠です。

## 主な成果



### 12件のECW支援のMYRP で人道—開発—平和の調整 改善の証拠

が報告されました。

この数は2023年の2倍です。



**新たなMYRPコンソーシアムモデル**  
が2024年に導入され、現地および国レベルの関係者と女性主導の組織の役割と資金配分を明確化しました。グランド・バーゲン (Grand Bargain) へのECWのコミットメントを確固たるものとし、現地レベルに権限を移行させるものです。



### MYRPの30%とFERの 24%以上

が、現地および国レベルの関係者の関与強化の証拠を提示しました。



### MYRPの71%

が学習成果を期日通り報告し、これらのデータセットのうち58%は男女別集計済みでした。2023年の64%および39%からそれぞれ改善が見られました。

さらに ECW は 2024 年、グローバル公共財やデータツール、ガイダンス資料の制作を拡大しました。しかし、主な課題として、適応的な学習の推進のためプログラム横断的なエビデンスの体系的な使用と活用を確保することが依然として残ります。

さらに、システム強化の取り組みの一環として支援プログラムに気候レジリエンスが組み込まれ始めました。気候変動に適応した教育は少なくとも 21 カ国の MYRP の設計に統合され、11 の FER が気候変動に起因する事象に対応しました。これは ECW が将来を見据えた教育システムの構築に取り組んでいることを示しています。

# 3 緊急時・長期化する教育 (EiEPC) への資金のより効果的な動員と焦点化

2024 年、ECW は新規拠出金として 2 億 4370 万ドルを獲得し、現在の戦略計画期間における総資金調達額としては 9 億 3400 万ドル、ECW 設立以来の動員総額としては 16 億 6000 万ドルに達しました。2024 年現在、イタリアからの初の資金コミットメントが確保された結果、ECW はすべての G7 諸国から支援を受けています。このことは、危機下において教育を提供する基金の役割に対する世界的な認識の高まりを示しています。

しかし体系的な資金不足は深刻化し、この 10 年以上で初めて教育分野への国際人道援助資金は減少しました。大幅な援助資金の縮小は 21 カ国で教育目標の削減をもたらし、その削減率は平均 40% 以上。チャドとスーダンでは 80% 以上に上り、危機対応における教育資金の脆弱性を露呈しました。

ECW 戦略計画の調達目標額 15 億ドルのうち、これまでに 62% (未確定約束額 1 億 1300 万ドルを含む) が調達された現状を踏まえ、達成された進展を維持し基盤とすると同時に、拡大する資金ギャップを埋めるため、ドナーとパートナーによる緊急かつ持続的な行動が求められています。



ブルンジの教室で School Auntie と呼ばれるメンターのジョセフィンと彼女のサポートを受ける子どもたち。ECW の投資は、度重なる気候変動に誘発された災害による避難を含む国内の危機の影響を受けた少女・少年たちの教育の継続を支援しています。

## 主な成果



### ECWのドナー基盤の多様化の継続

は、官民双方のパートナーからの新規拠出を確保しました。これには日本政府による300万ドルの初拠出と、スイス州立銀行との正式なパートナーシップの締結が含まれます。同銀行はECWに対し、1,000万スイスフランを元手に革新的なリターン志向型投資ファンドを立ち上げ、年間700万スイスフランの拠出を見込んでいます。



### さらなる追加資金拠出

には、米国国務省人口・難民・移民局からの700万ドル、スイス政府による3,700万ドルの拠出約束、欧州委員会および英国政府によるスーダン危機へのECW地域対応への献身的な支援が含まれます。



### 39%

(総支出額2億200万ドルのうち)が忘れられた危機や資金不足の危機下にある地域に充てられ<sup>3</sup>、ECW基金の公正性と最も取り残された子どもたちに支援を届けるコミットメントを再確認しました。



### 持続的なアドボカシー

ECWは気候変動対策資金や慈善資本、民間セクターの投資を含む追加的資金をアンロックする革新的資金調達メカニズムを模索しながらも、複数年にわたる柔軟な資金拠出に向けたアドボカシーを継続しました。



### ECWが主要イニシアチブを開始

UNESCOの「グローバルエデュケーションモニタリングレポート」チームと協働し、ECWはEiEPC資金調達オブザーバトリーのもとで主要イニシアチブを開始しました。IATIおよびFTSデータセットの統合と分析を行い、透明性の向上とエビデンスに基づくアドボカシー支援を推進しました。

3 詳細はセクション 3.3.1 を参照のこと。

# 今後の展望

2023年-2026年戦略計画期間も後半に差し掛かるにあたり、今後の道筋は明確です。それは少なくとも2026年までに1,070万人の子どもへの支援を加速させること、データに基づくジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラミングへの投資をより一層強化すること、そして財政を拡大・連携させるため人道一開発のネクサスを通じて取り組むことです。

慢性的な資金不足を解消するためには、従来の開発援助から気候変動対策資金、慈善資本、革新的な仕組み（成果連動型資金調達・マッチング資金・混合資金など）まで、あらゆる資金源を活用する必要があります。

「何もしないこと」の代償はあまりにも大きく、学校に通えない年数が長引くほど、不平等は深刻化し、貧困は固定化され、危機に直面する子どもたちが未来を再構築する機会が奪われます。

実績あるモデルと強固な成果、拡大し続けている幅広いパートナーとの提携を背景に、ECWはその影響を拡大する上で有利な立場にあります。いかなる危機にあっても教育がすべての子どもにとってアクセス可能な生命線であり続けることを保証するため、大胆かつ協調的な政治的リーダーシップが今必要とされています。

ナイジェリアの学校で、マリヤは自分の絵を掲げています。  
大人になったら、教師になるのが夢です。



# 2023年/2024年に実施中のECW支援プログラムにより支援された子どもの数

## 2023年-2026年戦略計画の1年目と2年目の累積結果

地理的地図は、2023年および/または2024年に実施中のプログラムにより支援を受けた子どもの総数を国別に示しています<sup>4</sup>。

これには28カ国における40のFERおよびMYRPが含まれます<sup>5</sup>。

### ヒートマップの凡例

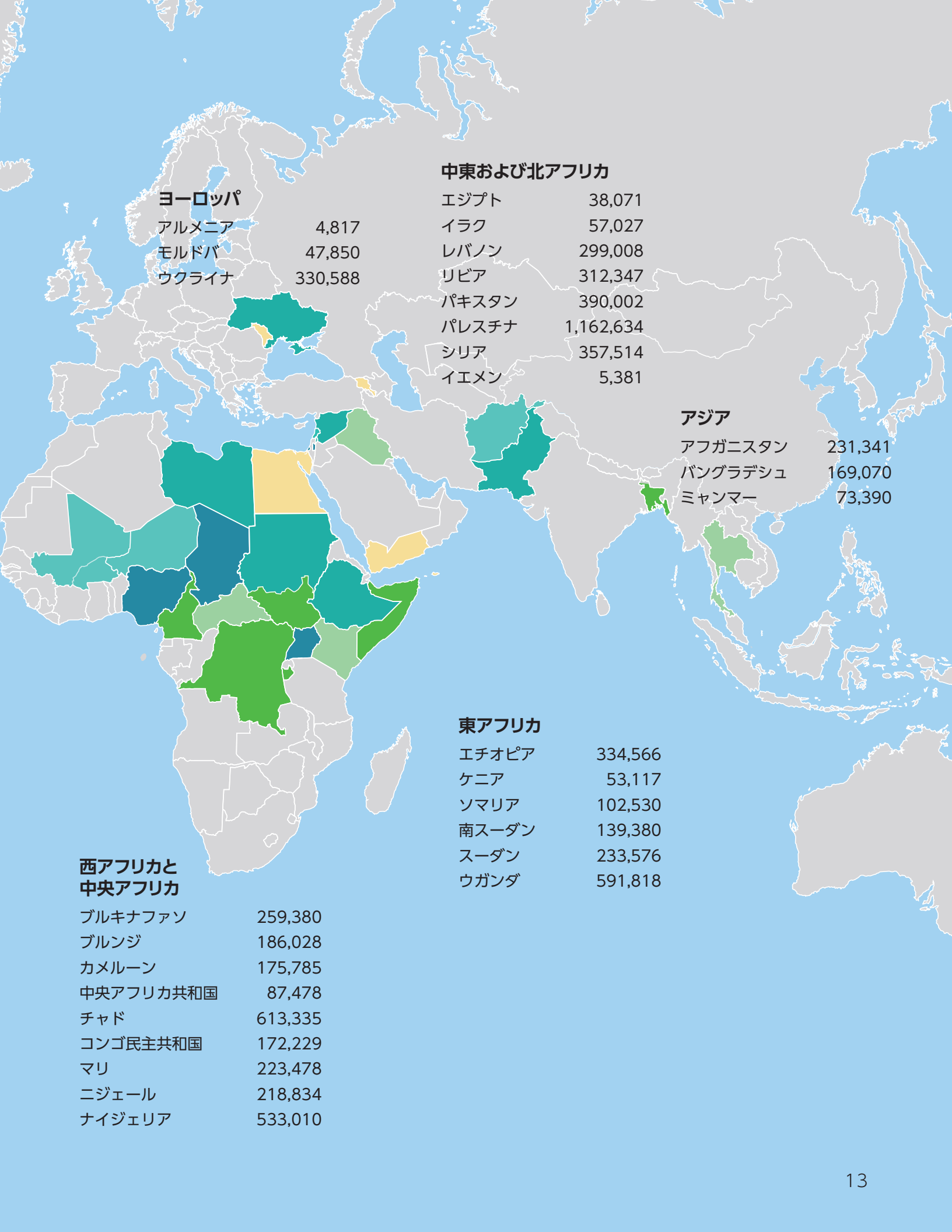


### 南米とカリブ海地域

コロンビア	98,236
エクアドル	218,740
ペルー	35,476
ハイチ	523,354

4 支援が到達した子どもの数は累積値。したがって、地図に表示されている国別の2023年および/または2024年に実施中の全プログラムによって到達した子どもの数は総数。

5 プログラムは複数の助成金から構成される場合があります。「実施中」とは、特定の年（例：2023年）に実施されたプログラムを指し、その年全体またはその一部で実施された場合を含む。



**ヨーロッパ**

アルメニア	4,817
モルドバ	47,850
ウクライナ	330,588

**中東および北アフリカ**

エジプト	38,071
イラク	57,027
レバノン	299,008
リビア	312,347
パキスタン	390,002
パレスチナ	1,162,634
シリア	357,514
イエメン	5,381

**アジア**

アフガニスタン	231,341
バングラデシュ	169,070
ミャンマー	73,390

**東アフリカ**




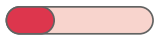
エチオピア	334,566
ケニア	53,117
ソマリア	102,530
南スーダン	139,380
スーダン	233,576
ウガンダ	591,818

**西アフリカと中央アフリカ**

ブルキナファソ	259,380
ブルンジ	186,028
カメルーン	175,785
中央アフリカ共和国	87,478
チャド	613,335
コンゴ民主共和国	172,229
マリ	223,478
ニジェール	218,834
ナイジェリア	533,010

# スコアカード方式

全3章にわたる指標の報告において、ECWはスコアカード方式を導入し、指標目標の達成に向けた進捗状況を次のように分類しています。

	指標目標を達成
	2026年末までに目標を達成する見込み（現在の予測に基づく）
	2026年末までに目標を達成できないリスクがある（現在の予測に基づく）
	2026年末までに目標を達成する見込みがない（現在の予測に基づく）

## 2024 年末時点のスコアカードの状況

2024年のスコアカード分類は、ECW事務局のモニタリング・評価・グローバル報告（M&E）チームによる定性的評価を通じて決定されました。この評価では、2025年初頭の主要な援助セクターの削減によって生じた不確実性の高まりが考慮されました。この削減により、戦略計画目標に向けた進捗のペースが影響を受け、時間の経過と共に成果のばらつきが大きくなる可能性があります。

ECWの成果フレームワークにおける指標の大半は累積的であり、年次毎の状況を捉えるものではなく、戦略計画の全期間にわたる総合的な進捗を追跡するものです。したがって、方向性の変化を可視化し、改善または後退している分野を特定するため、スコアカードの分類は2023年と2024年の両年で提示されています。

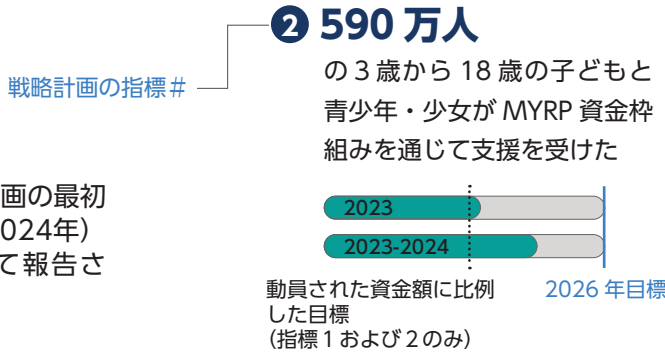


QRコードを読み取ると、データおよび指標の算出方法に関する追加の詳細を含む完全版報告書にアクセスできます。

# 年次成果報告書スコアカード： 2026 年目標に向けた進捗状況

2023 年 -2026 年戦略計画の 1 年目と 2 年目の累積結果<sup>6</sup>

結果の読み方：



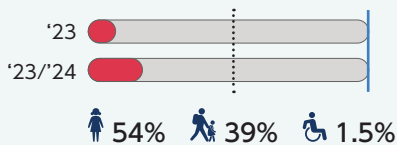
	目標達成
	達成見込み
	達成リスクあり
	達成見込みが 立っていない

特記がない限り戦略計画の最初  
の 2 年間（2023 年-2024 年）  
の成果は累積値として報告さ  
れる。

ECW は 2023 年 -2026 年戦略計画の中間時点で 830 万人の子どもたち（うち 51% が女子）に  
支援を行いました。

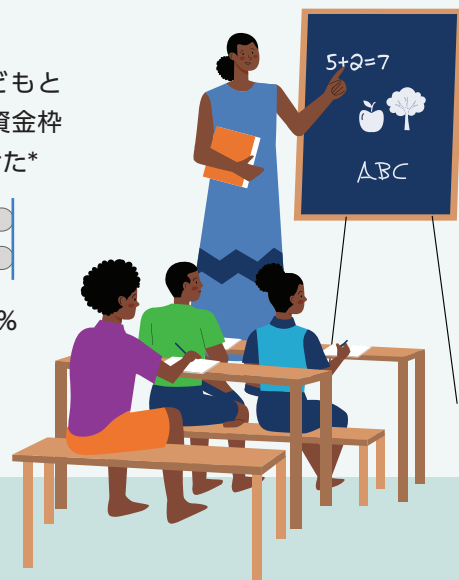
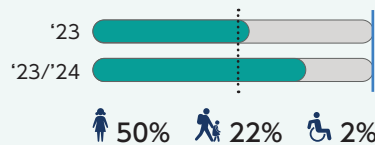
## ① 238 万人

の 3 歳から 18 歳の子どもと  
青少年・少女が FER 資金枠組  
みを通じて支援を受けた\*



## ② 590 万人

の 3 歳から 18 歳の子どもと  
青少年・少女が MYRP 資金枠  
組みを通じて支援を受けた\*



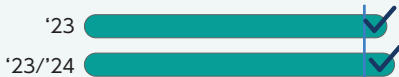
6 \* 印の付いた年次指標を除き、戦略計画の最初の 2 年間（2023-2024 年）については、すべての成果が累積で報告されている。



ECW プログラムは、子どもたちの教育へのアクセス改善を維持してきました。

…そして、子どもたちがフォーマル教育およびノンフォーマル教育機会に留まり、移行し、修了できるよう支援を強化しています。

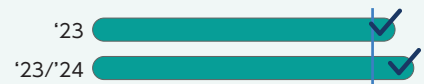
**③ 96%** の FER/MYRP で、ECW が支援したコミュニティにおける教育参加率が向上した \*



**④ 64%** の FER/MYRP で、ECW 支援の学習スペースにおける保持率または修了率が 75% を超えた証拠を示している \*



**⑤ 91%** の FER/MYRP で、フォーマル教育からノンフォーマル教育への移行率が 60% を超えた証拠を示している (ECW 支援コミュニティにおいて) \*



より多くのプログラムが、子どもたちの学力と社会・情動的学習スキルが向上していること、そして公正なアクセスと学習を促進するジェンダー規範が変化していることを示しています。

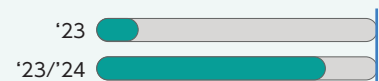
**⑥ 88%** の MYRP で、ECW 支援の学習スペースにおいて読み書きおよび／または計算能力が改善した証拠を示している \*



**⑦ 78%** の MYRP で、ECW 支援の学習スペースにおける子どもの社会・情動的学習／ウェルビーイングが改善された証拠を示している \*

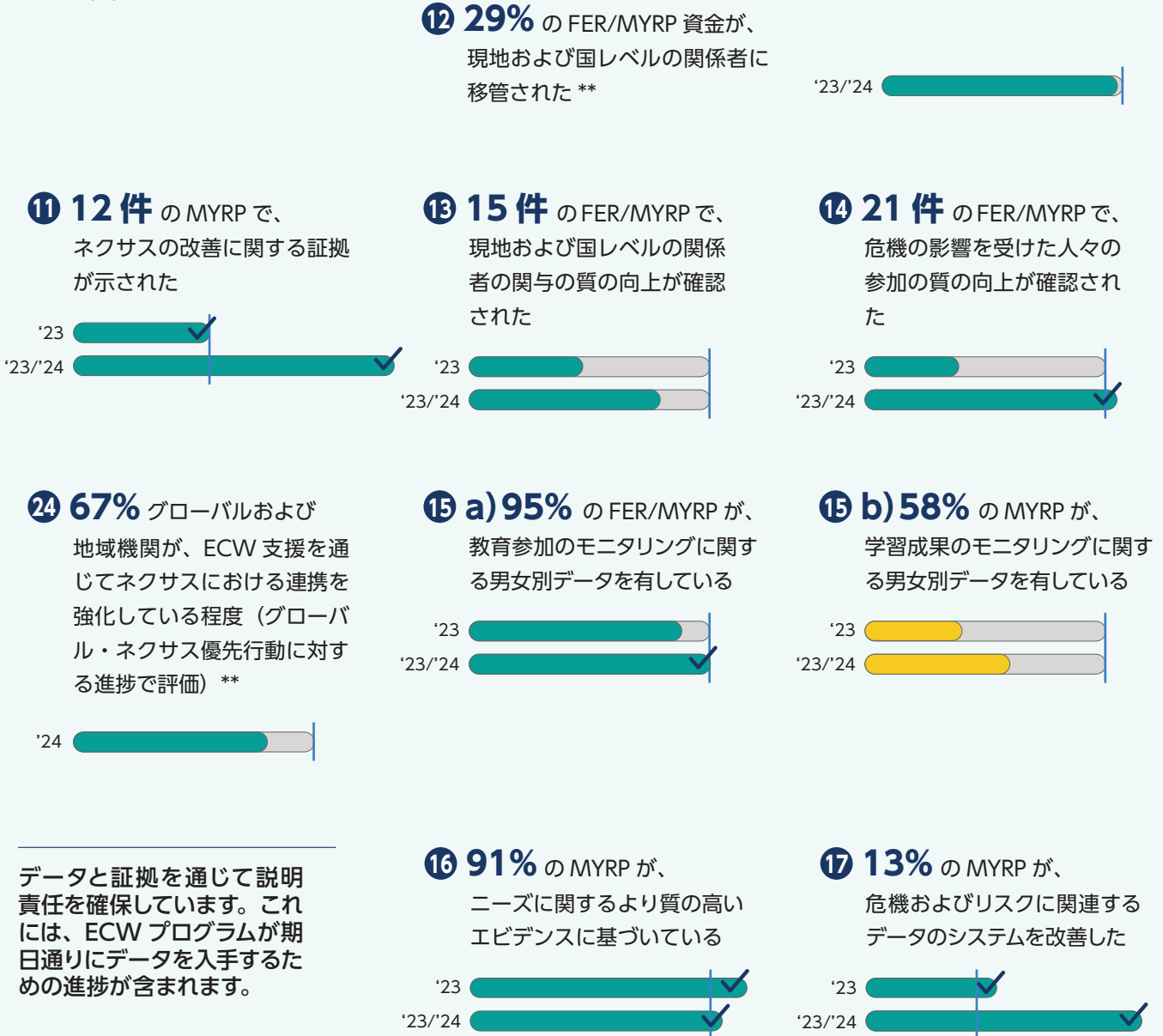


**⑧ 5件** の MYRP で、ジェンダー平等に対する社会的規範と態度に変化の証拠が示された



援助効果の原則に基づき、ECW は国およびグローバルレベルでのパートナー間の連携を改善しています。

現地および国レベルの関係者や影響を受けたコミュニティのオーナーシップと関与を強化しています。

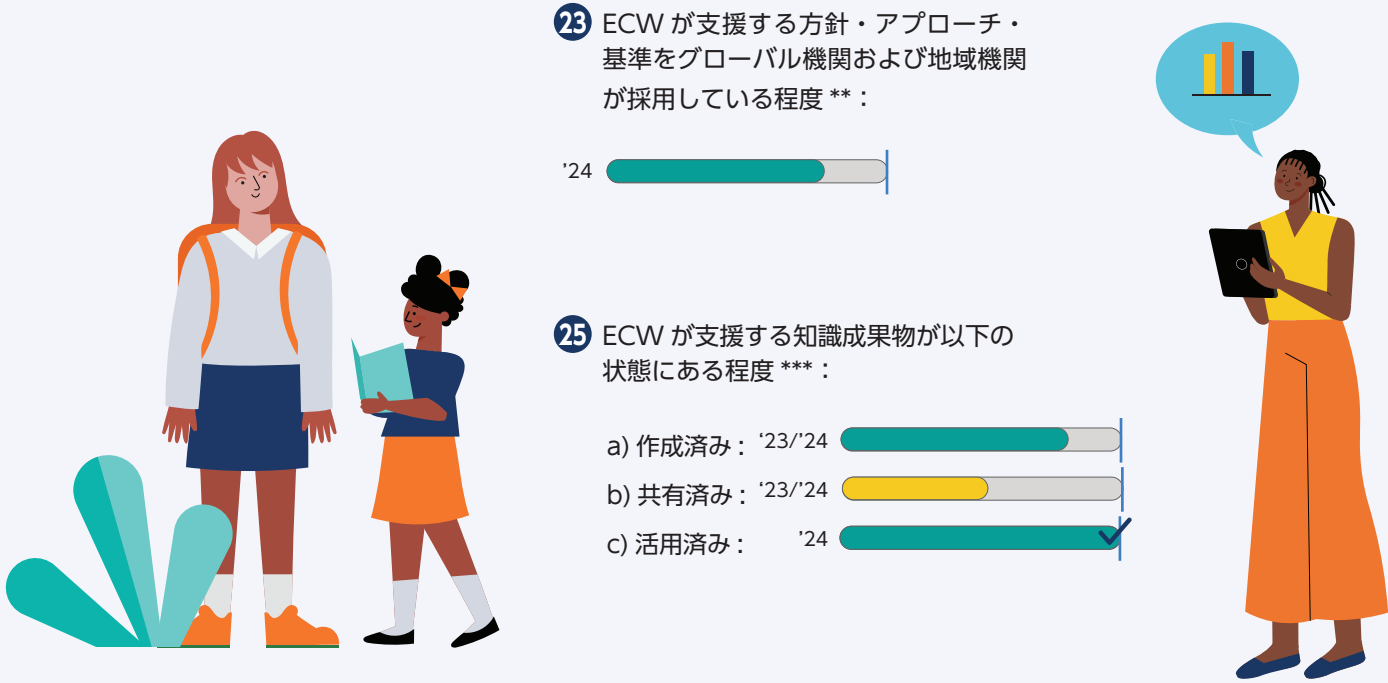


データと証拠を通じて説明責任を確保しています。これには、ECW プログラムが毎日通りにデータ入手するための進捗が含まれます。

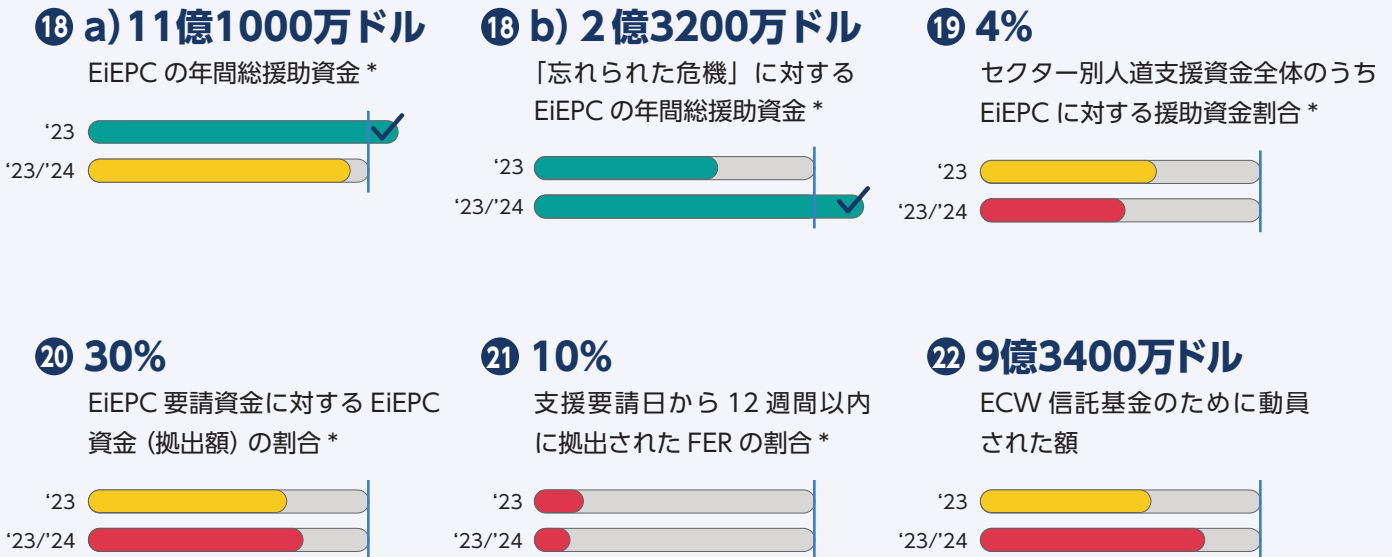
ECW とパートナーは、連携した資金の動員目標を達成しましたが、国レベルにおける EiEPC への資金の優先度には、リスクが残っています。



ECW が支援する技術的ガイダンスとツールの採用は依然として限定的で、より効果的な普及と実践への統合の必要性が浮き彫りとなっています。



世界的に、人道支援における教育の優先度は後退しています。資金要請は減少しているものの、資金は停滞したままで、必要額を大きく下回っています。



\*\* 2024 年の結果のみ報告。

\*\*\* 2024 の結果のみここに記載。詳細については報告書を参照のこと。

## 教育を後回しにはできない基金 (Education Cannot Wait: ECW) について

教育を後回しにはできない基金 (ECW) は、緊急時および長期化する危機下の教育に特化した国連のグローバル基金です。私たちは、難民や国内避難民、その他の危機の影響を受けた少女・少年が誰一人取り残されることなく、質の高い教育が受けられるように支援しています。ECW は多国間システムを通じて、危機下での対応スピードを高めるとともに、複数年にわたるプログラムを通じて緊急支援と長期的な支援を結びつける取り組みを行っています。ECW は、支援の効率性を高め、連携不足を解消するため、政府・官民ドナー・国連機関・市民社会組織・その他の人道支援・開発援助関係者との緊密なパートナーシップの下支援しています。ECW はより多くの脆弱な立場の子どもや若者を支援するため、官民のドナーに対して支援の拡大を緊急に訴えています。

詳細は [www.educationcannotwait.org/](http://www.educationcannotwait.org/) でご覧いただけます。

お問い合わせ：info@un-ecw.org

フォロー：

@EduCannotWait

